

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第4週 (1/20-1/26) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	4週	3週	2週	1週
小児科	18	18	18	17
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	27
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	1/20-1/26	1/13-1/19	1/6-1/12	12/30-1/5	1/13-1/19
			4週	3週	2週	1週	3週
小児科	RSウイルス感染症		2 0.11	1 0.06	4 0.22	0 0.00	23 0.17
	咽頭結膜熱		4 0.22	3 0.17	7 0.39	3 0.18	36 0.27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	73 4.06	39 2.17	48 2.67	9 0.53	427 3.21
	感染性胃腸炎		118 6.56	128 7.11	135 7.50	15 0.88	790 5.94
	水痘		4 0.22	2 0.11	9 0.50	2 0.12	42 0.32
	手足口病		3 0.17	2 0.11	1 0.06	0 0.00	20 0.15
	伝染性紅斑		5 0.28	4 0.22	5 0.28	0 0.00	30 0.23
	突発性発しん		8 0.44	4 0.22	9 0.50	1 0.06	37 0.28
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	3 0.02
	流行性耳下腺炎		3 0.17	0 0.00	1 0.06	0 0.00	8 0.06
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○★	468 16.71	456 16.29	549 19.61	60 2.22	4,003 18.71
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		3 0.60	5 1.00	2 0.40	0 0.00	26 0.79
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	6 0.67
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	病原体の分離・同定	結核	女性	30歳代	IGRA検査
結核	男性	80歳代	病原体の分離・同定	E型肝炎	男性	80歳代	血清IgA抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体の分離・同定等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	80歳代	病原体の分離・同定等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出

*第4週は、結核5件(14)、E型肝炎1件(1)、百日咳2件(2)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第4週のコメント

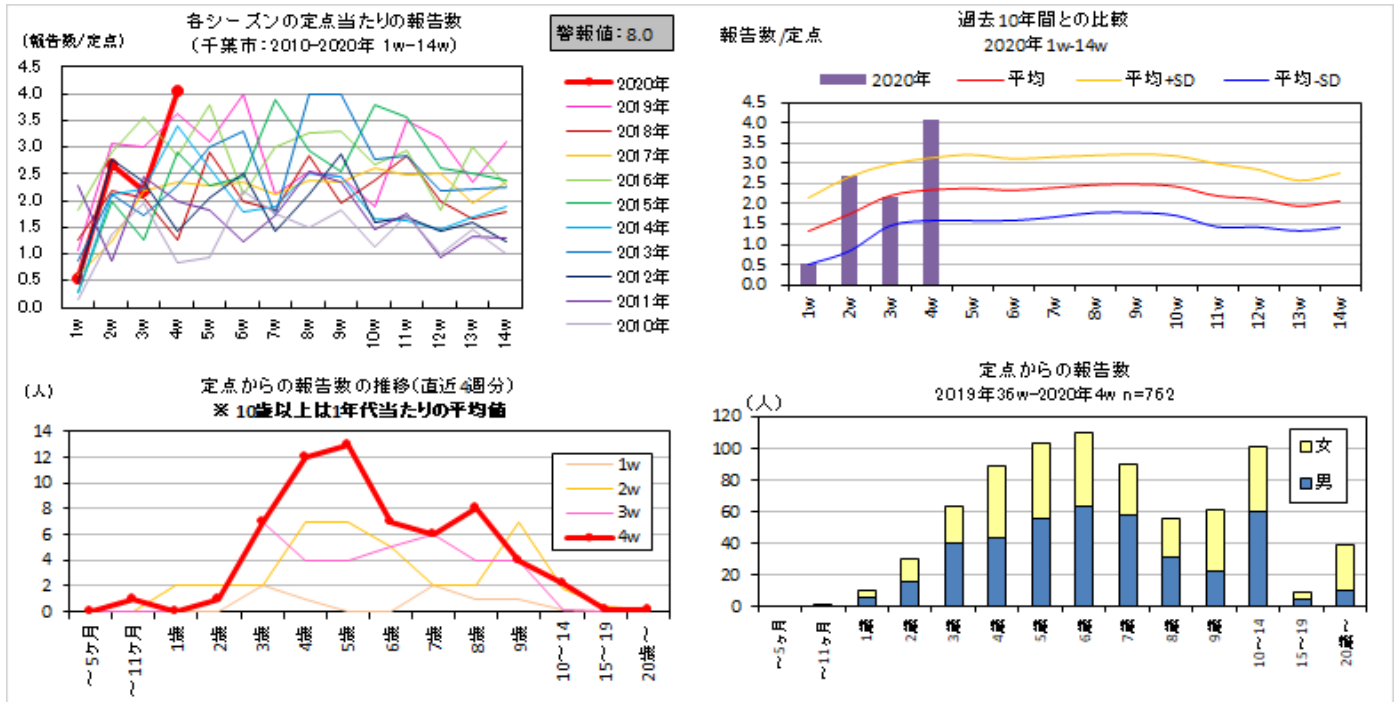
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し4.06となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<インフルエンザ> 前週より若干増加し16.71となった。流行発生注意報基準値を上回ったままだが、過去10年の同期と比べるととても少ない。

■ トピック ■

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第3週の定点当たりの報告数は2.44となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では鳥取県、富山県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は3.21で、全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第4週は前週より増加し4.06となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、緑区(6.50/定点)で最多で、同区の4歳及び6歳で最も多くの報告がありました。今シーズンである2019年第36週から2020年第4週までの累積報告数は762件で、性別では男性が54.2%(413名)、女性が45.8%(349名)となっており、年齢階級別では6歳(14.4%:110名)、5歳(13.5%:103名)、10歳代前半(13.3%:101名)の順で多くなっています。



<インフルエンザ>

全国レベルの第3週の定点当たりの報告数は16.73となり、流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回ったままですが、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では高知県、福井県、長崎県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は18.71で、全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第4週は前週より若干増加し16.71となり、流行発生注意報基準値を上回ったままですが、過去10年の同時期と比べるととても少なくなっています。区別の発生状況は、中央区(24.00/定点)で流行発生警報終息基準値(10.0/定点)を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、10歳未満では4歳及び7歳で最も多くの報告がありました。今シーズンである2019年第36週から2020年第4週までの累積報告数は3615件で、性別では男性が51.0%(1844名)、女性が49.0%(1771名)となっており、年齢階級別では7歳(7.5%:272名)、8歳(6.4%:232名)、6歳(5.9%:212名)の順で多く、20歳未満が全体の70.0%(2532名)、10歳未満が全体の49.2%(1779名)となっています。

